

(提案13)

公開シンポジウム「日独シンポジウム ダイバーシティが創る卓越性
～学術における女性・若手研究者の進出～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議、ベルリン日独センター、国際交流基金
2. 日 時：平成27年9月4日（金） 10:00～18:00
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 開催趣旨：
以下の点につき、ドイツと日本の現状や好例を紹介し、どのような弊害が若
者や女性の社会進出を狭めているかを議論し、「ダイバーシティが創る卓越性
～学術における女性・若手研究者の進出～」を探る。
 - (1) ドイツ及び日本における女性研究者の比率の現状とその背景、今後の
対策
 - (2) 少子高齢化と若手研究者・女性研究者の登用機会減少
 - (3) 育児とキャリア形成の問題
 - (4) いまだに男性中心の体制である学術・研究界で、若手研究者・女性・
外国人研究者等の力を取り込むための方策
 - (5) 上記を踏まえた「ダイバーシティが創る卓越性 ～学術における女性・
若手研究者の進出～」に向けた提言

5. 次 第：

9:30 若手研究者意見交換会の参加者受付開始

10:00～12:00 日独の若手研究者による意見交換会（英語による直接討論）

10:00 挨拶：フリーデリケ・ボッセ（ベルリン日独センター事務総長）

10:10 日独若手研究者（約5名対約5名）

参加者内訳 <日本側> 日本学術会議若手アカデミー会員及び同会
員から紹介された者 5名

<ドイツ側> ドイツ日本研究所 1～2名
ドイツ・ヤング・アカデミー 2～3名

モデレーター <日本側> 日本学術会議会員 から 1名
<ドイツ側> ドイツ・ヤング・アカデミーから（仮）1名
（オブザーバー）

大沢 真理（日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所教授）
ゲジーネ・フォリヤンティ・ヨースト（マルティン・ルター大学ハレ・
ヴィッテンベルク校教授）

ウテ・ザクソフスキー(フランクフルト大学教授・HESSE 州裁判所副所長)
ウルリケ・アイクホフ(ドイツ研究振興協会プログラム・ディレクター)

12:00～13:00 (昼 食)

12:50 集合、午後のセッションの受付

13:00～18:00 一般向け公開シンポジウム 「ダイバーシティが創る卓越性～学術における女性・若手研究者の進出～」

13:00 挨拶

向井 千秋(日本学術会議副会長・第二部会員、東京理科大学副学長)

13:10 挨拶

フリーデリケ・ボッセ(ベルリン日独センター事務総長)

13:20 挨拶

茶野 純一(国際交流基金日本研究・知的交流部部長)

13:30 - 14:00 シンポジウム趣旨(日独双方の立場から報告)

13:30 ゲジーネ・フォリヤンティ・ヨースト(マルティン・ルター大学ハレ・
ヴィッテンベルグ校教授)

13:45 大沢 真理(日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所所長・教授)

14:00 - 15:00

セッション1: 「若手研究者はこう考える」

(ファシリテーター)

ゲジーネ・フォリヤンティ・ヨースト(マルティン・ルター大学ハレ・
ヴィッテンベルグ校教授)

14:00 ドイツの若手研究者代表(午前の部を踏まえた知見)

14:15 日本の若手研究者代表(午前の部を踏まえた知見)

14:30 コメンテーター(*)よりコメント

(*)ドイツ側<検討中>、日本側理系研究者<向井副会長が推薦する者>、
続いてドイツ及び日本の若手研究者とコメンテーターとの討論

14:30～15:15 (休憩)

15:15 - 16:45

セッション2: ラウンド・テーブル「大学経営におけるダイバーシティ」

(ファシリテーター)

大沢 真理(日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所所長・教授)

(パネリスト候補)

江原由美子(日本学術会議連携会員、首都大学東京大学院人文科学研究科教・
ダイバーシティ推進室・前室長)

有本 健男(政策研究大学院大学教授、元 文部科学省科学技術・学術政策

局長)

ウテ・ザクソフスキー (フランクフルト大学教授・HESSE 州裁判所副所長)

ウルリケ・アイクホフ (ドイツ研究振興協会プログラム・ディレクター)

16:45 - 17:45

全体討論会「女性や若者の活躍を進める」

(ファシリテーター)

廣渡 清吾 (日本学術会議連携会員、専修大学法学部教授、東京大学名誉教授)

(パネリスト候補)

ゲジーネ・フォリヤンティ・ヨースト (マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク校教授)

江原由美子 (日本学術会議連携会員、首都大学東京大学院人文科学研究科教授・ダイバーシティ推進室・前室長)

有本 建男 (政策研究大学院大学教授、元 文部科学省科学技術・学術政策局長)

ウテ・ザクソフスキー (フランクフルト大学教授・HESSE 州裁判所副所長)

ウルリケ・アイクホフ (ドイツ研究振興協会プログラム・ディレクター)

ゲジーネ・フォリヤンティ・ヨースト (マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク校教授)

大沢 真理 (日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所所長・教授)

17:45～18:00 質疑応答

18:00 終了、撤収開始

(提案 1 4)

「サイエンスアゴラ 2015」の開催について

1. 主 催：日本学術会議、フューチャー・アースの推進に関する委員会、科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会
2. 共 催：国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ
3. 後 援：内閣府、外務省、文部科学省（申請予定）、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本科学技術ジャーナリスト会議、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人日本
4. 日 時：平成 27 年 11 月 13 日（金）～11 月 15 日（日）
5. 場 所：日本科学未来館
6. 委員会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：
研究者・専門家と社会の様々で多様なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場、科学技術と社会の関係性についてのあらゆる「科学コミュニケーション」を深化させる場、科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を作り出すことに講演する場を提供することを目的とする。
なお、フューチャー・アースの推進に関する委員会及び科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会が以下のシンポジウムを実施する。
8. 次 第：
(1) フューチャー・アース ～持続可能な地球社会に向けて～

開催日時：平成 27 年 11 月 14 日(土) 13 時 00 分～17 時 00 分
開催場所：日本科学未来館 7 階 会議室 3
定 員：80 名～100 名

<概 要>

地球規模の諸問題に関する様々な国際共同研究を統合し、地球の変動を包括的に理解するとともに、これらの研究成果を問題解決に活用し、社会変容に結びつけるための研究を行う国際的イニシアティブである「フューチャー・アース」の理解を深め、持続可能な地球社会へ向けた研究を進めるために、様々なステークホルダーの意見をボトムアップ的に広く集めることを目的とする。

<プログラム>

13：00～13：05 開会挨拶
安成 哲三*（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所
所長）
13：05～13：25 基調講演 1（20 分）
Paul Shrivastava (Future Earth Executive Director)（調
整中）
13：25～13：45 基調講演 2（20 分）
Mark Stafford Smith (Future Earth Science Committee
Chair)（調整中）
13：45～14：05 基調講演 3（20 分）
Jairam Ramesh (Future Earth Engagement Committee
Chair)（調整中）
14：05～14：15 休憩
14：15～15：00 グループディスカッション 1
15：00～15：10 休憩
15：10～15：50 グループディスカッション 2
15：50～16：00 休憩
16：00～17：00 パネルディスカッション

(2) レギュラトリーサイエンスの理解と社会応用

開催日時：平成 27 年 11 月 15 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所：日本科学未来館 7 階 会議室 2
定 員：84 名

<概 要>

社会において、生活環境や働く人の環境、食品等の安全性確保のために行われる有害物質の環境基準等の設定方法は必ずしも一般に理解されていない。環境基準値は大学・研究所において明らかとなった研究結果を基に、リスク評価が行われ、その時点で最も安全性の高い数値が決定されるが、当然暫定値である。新しい科学的データが出てきた場合、その基準値は見直される。リスク評

価されると、リスク管理・リスクコミュニケーションが容易に行える。このアゴラでは有害物質として放射性物質、メチル水銀、農薬、鉛、PM2.5を例にあげ、大学や研究所における実験的・疫学的研究を実社会生活に応用することの必要性を理解して頂き、科学と社会をつなぐレギュラトリーサイエンスの重要性とその問題点を議論する。

<プログラム>

10：00～10：05 開会挨拶

小松 久男*（第一部会員、東京外国語大学大学院総合国際学研究院・特任教授）

10：05～10：30 話題提供 1

佐藤 洋（内閣府食品安全委員会委員長代理）

10：30～10：45 話題提供 2

上島 通浩（名古屋市立大学大学院医学研究科教授）

10：45～11：00 話題提供 3

武林 亨（慶応義塾大学医学部教授）

11：00～11：15 話題提供 4

村田 勝敬（日本学術会議連携会員、秋田大学大学院医学系研究科教授）

11：15～11：30 話題提供 5

安井省侍郎（厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課
電離放射線労働者健康対策室長補佐）

11：30～12：00 ディスカッション

佐藤 洋（内閣府食品安全委員会委員長代理）

上島 通浩（名古屋市立大学大学院医学研究科教授）

武林 亨（慶応義塾大学医学部教授）

村田 勝敬（日本学術会議連携会員、秋田大学大学院医学系研究科教授）

安井省侍郎（厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課
電離放射線労働者健康対策室長補佐）

柴田 徳思*（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本アイソトープ協会専務理事）

青柳みどり（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター環境計画研究室室長）（調整中）

大瀧 直子（主婦）

中学校教員経験者（交渉中）

12：05～12：10 閉会挨拶

須藤 靖*（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

コーディネーター：

那須 民江*（日本学術会議第二部会員、中部大学生命健康科

(3) 文理融合で、人文社会科学はこんなに変わる！

開催日時：平成 27 年 11 月 15 日（日）13:00～15:00

開催場所：日本科学未来館 7 階 会議室 2

定 員：84 名

<概 要>：

理系分野の方法を、積極的に人文学・社会科学に取り入れて、人文社会科学の刷新を図ろうとする動き（実験社会科学、実験哲学、デジタル・ヒューマニティーズなど）が盛り上がりを見せてきた。この企画では、「実験社会科学」の旗手である亀田達也氏（社会心理学）、計算機シミュレーションにより従来、人文学・社会科学がテリトリーとしてきた問題に取り組んでいる有田隆也氏（情報科学・複雑系科学）をゲストスピーカーに招き、お二人の研究の最前線や動機を語っていただいた後に、フロアの参加者を交えて、自然科学的手法を取り入れることによって、人文社会科学をどのように再活性化することができるかを語りあう。

<プログラム>

13：00～13：05 開会挨拶

戸田山和久*（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院
情報科学研究科教授）

13：05～13：35 講演 1

亀田 達也（日本学術会議会員、東京大学大学院人文社会
系研究科教授）

13：35～14：05 講演 2

有田 隆也（名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

14：05～14：55 ディスカッション

14：55～15：00 閉会挨拶

戸田山和久*（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院
情報科学研究科教授）

（*印の講演者等は、主催委員会等委員）

(提案 15)

公開シンポジウム「東京大都市圏を考えるシンポジウム『東京大都市圏—中央線沿線地域における連携型都市圏の形成と今後について』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会、中央大学
経済研究所、都市経営研究会

2. 日 時：平成 27 年 9 月 2 日（水）13：30～17：00

4. 場 所：国分寺市立いずみホール

5. 分科会の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：

人口減少期に入り、様々な課題が浮上しており、政府は人口減少期の地方行政体制として、地方中核都市が隣接の市町村との連携協定を結ぶ「連携中枢都市圏」の形成を求めているところ、中心市に公共サービスの供給に限定した役割だけでなく、①圏域全体の経済成長のけん引力として、②医療や公共交通など高次の都市機能の集積地として、③圏域全体の生活関連機能サービスの拠点としての役割を求められている。この政策措置は3大都市圏を除くとされているが、はたして大都市圏に問題はないのか。むしろ、これからは人口過集積の大都市圏こそが急速な少子高齢化で、危機的状況になるのではないか。

特に郊外の周縁地域から崩壊していく可能性が強いとも考えられる。大中小、様々な自治体が混在する大都市圏において、人口減少が激しくなる中、農村や地方との共生、さらに大都市圏内に一定規模の「連携型都市圏」を形成し、公共サービスの供給はもとより、地域再生の核にしていく必要がある。本シンポジウムでは、東京の中央線沿線地域にスポットを当て、今後の連携型都市圏のあり方を考えるものである。

7. 次 第：

総合司会

川井 綾子（フリーアナウンサー）

《第 I 部・講演》

13:30～13:35 開会挨拶（趣旨説明）

佐々木信夫*（日本学術会議第一部会員、中央大学経済学部教授）

13:35～14:05（30 分）

講演 I 「人口減少社会における地域社会と社会保障」

森田 朗*（日本学術会議連携会員、国立社会保障・人口問題研究所長、
東京大学名誉教授）

14:05～14:35（30分）

講演Ⅱ「連携中枢都市圏の考え方と大都市圏における今後」

小宮大一郎（総務省自治行政局市町村課長）

14:35～15:05（30分）

講演Ⅲ「中野区の挑戦、中央線沿線の連携型都市圏の形成」

田中 大輔（東京都中野区長）

《第Ⅱ部・パネルディスカッション》

15:15～16:45（90分）「東京・中央線沿線地域の連携型都市圏のあり方」

パネリスト

金井 利之（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

青山 彰久（読売新聞編集委員）

清水 庄平（東京都立川市長）

小宮大一郎（総務省自治行政局市町村課長）

田中 大輔（東京都中野区長）

コーディネータ

佐々木信夫*（日本学術会議第一部会員、中央大学経済学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 16)

公開シンポジウム「国際化と国産牛肉のブランド戦略について考える」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会 畜産学分科会
2. 共 催：肉用牛研究会、日本畜産学アカデミー、奥州市牛の博物館
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成27年9月17日(木) 13:00～16:10
5. 場 所：奥州市前沢ふれあいセンター 大ホール
6. 分科会の開催：開催なし

7. 開催趣旨：

私たちの食卓にも国際化の波が押し寄せている。牛肉は自由化に伴い国産牛肉の割合は今や40%台となっている。国内の肉牛生産は輸入牛肉に対する優位性を保つために各地で特色のあるブランド牛生産への取り組みがなされている。TPP 交渉などに見られるように国際化は今後一層進展することが予想されるが、今後わが国の肉用牛生産がどのように展開していくのか、安全・安心、高品質が保証された牛肉を国民の食卓に安定的に届けるにはどうすれば良いのかなどの課題が肉牛関係者にとって重要になってきている。そこで、標記のテーマでシンポジウムを開催し、今後の国際化の進展とそれに伴うわが国農業への影響を考察し、肉用牛の振興を図るにはどのような対応が必要なのかを肉用牛関係者だけでなく一般市民の方々にも関心を持っていただき一緒に考えてみたいと考える。

8. 次 第：

13:00～13:10 開会挨拶

佐藤 英明*（日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良センター
理事長、東北大学名誉教授）

基調講演

座長

木村 直子*（日本学術会議連携会員、山形大学農学部教授、岩手大学大学
院連合農学研究科教授）

13:10～13:50 「農業と国際経営戦略」

三石 誠司（宮城大学食産業学部フードビジネス学科教授）

13:50～14:30 「国産牛肉のブランド戦略」

木村 信熙 (日本獣医生命科学大学名誉教授)

14:30～15:30 生産現場からの提言

座長

守屋 和幸 (京都大学大学院情報学研究科教授)

14:30～14:50 「6山6里方式と周年預託による肉用牛振興と地域の活性化」

千田 和明 (JA いわてふるさと農協胆沢地域センター課長補佐兼牧場長)

14:50～15:10 「奥州市胆沢牧野を活用した増頭の取り組み」

高橋 先雄 (繁殖経営者)

15:10～15:30 「前沢牛のブランド力向上への取り組み」

及川 哲郎 (前沢牛生産者)

総合討論

座長

入江 正和 (近畿大学生物理工学部教授)

16:00～16:10 閉会挨拶

渡邊 誠喜 (日本畜産学アカデミー会長、東京農業大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 17)

公開ワークショップ「Future Earth 推進のための教育と人材育成： Co-design/Co-production をどう実践するか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 フューチャー・アースの推進に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 27 年 9 月 24 日（木）14:00～16:30
5. 場 所：日本学術会議大会議室（2 階）
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

Future Earth では、科学と社会の協働による Co-design Co-production の推進が強く求められている。それを実践するための教育や人材育成をいかに進めていくべきであろうか。本公開ワークショップでは、分科会委員の報告をもとに、様々な可能性について討議を行う。

8. 次 第：

14:00～14:05 開会挨拶

氷見山幸夫*（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）

14:05～14:25 報告 1 「サステナビリティ学における教育と人材育成」

武内 和彦*（日本学術会議第二部会員、東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構機構長・教授）

14:25～14:45 報告 2 「Co-design、Co-production のための教育と人材育成」

春日 文子（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長、Future Earth 国際本部事務局日本ハブディレクター）

14:45～15:05 報告 3 「日本科学未来館が実践する科学コミュニケーションと人材育成」

毛利 衛*（日本学術会議連携会員、日本科学未来館館長）

15:05～15:25 報告 4 「Future Earth と学校教育」

日置 光久*（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院教育学研究科特任教授）

15:25～15:30 休憩

15:30～16:25 ディスカッション

16:25～16:30 閉会挨拶

花木 啓祐*（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 18)

公開シンポジウム「亀裂の走る世界の中で―地域研究からの問い」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会地域基盤整備分科会、多文化共生分科会、早稲田大学イスラーム地域研究機構
2. 共 催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点（TIAS）、その他調整中
3. 後 援：地域研究学会連絡協議会（JCASA）
4. 日 時：平成 27 年 10 月 3 日（土）13：00～17：00
5. 場 所：早稲田大学大隈小講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

ここ数年、世界の各地域では様々な「亀裂」や「断絶」が顕著になっており、しばしばそれは「暴力」的な形で表面化している。このような「亀裂」について、メディアでは「人種対立」や「原理主義・過激主義」といった言葉に還元したり、理解を越える異世界の問題として描いたりするなど単純化された図式にはめる傾向が一般的である。しかし、問題の背景には「人種・民族」や「宗教」のみならず、「貧困と格差」、「包摂と排除」、「安全保障」や「利権対立」に加え、歴史的経緯が複雑に絡み合っているのは明らかであろう。したがって、各地域にみられる「亀裂」を丁寧に掘り下げることの意義は大きい。

本シンポジウムでは、中東、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、東南アジア、東アジア・日本を対象とする地域研究の専門家を招いてそれぞれの地域にみられる「亀裂」や「暴力」について報告してもらう。地域研究者間の対話を通じて、地域間に通底する問題や共通項、対比や連関をあぶり出すとともに、「亀裂」の暴力化を防ぎ、緊張緩和を導く方策についても議論したい。

8. 次 第：

13:00 開会の辞・総合司会

桜井 啓子*（日本学術会議連携会員、早稲田大学教授、早稲田大学イスラーム地域研究機構長）

13:05 趣旨説明

西崎 文子*（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

13:20 基調報告「イスラームからみた『亀裂』のあり方」

内藤 正典（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授）

14:00 休憩

14:15 パネルディスカッション・司会

貴志 俊彦* (日本学術会議連携会員、京都大学地域研究統合情報センター・教授・副センター長)

14:20 ヨーロッパ

宮島 喬* (日本学術会議連携会員、お茶の水大学名誉教授)

14:35 アフリカ

武内 進一* (日本学術会議連携会員、日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター長)

14:50 米国

中條 献 (桜美林大学人文学系教授)

15:05 ラテンアメリカ

大串 和雄 (日本学術会議第一部連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

15:20 東南アジア

宮崎 恒二* (日本学術会議第一部会員、東京外国語大学副学長・アジア・アフリカ言語文化研究科教授)

15:35 東アジア・日本

外村 大 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

15:50 休憩

16:05 総合討論

16:50 閉会の辞

小松 久男* (日本学術会議第一部会員、東京外国語大学総合国際学研究院特任教授)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 19)

公開シンポジウム「情報学分野の参照基準に関するシンポジウム」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議情報学委員会、同情報科学技術教育分科会
2. 後 援： 情報処理学会情報処理教育委員会
3. 日 時： 平成 27 年 10 月 17 日（土） 13：30～17：00
4. 場 所： 早稲田大学西早稲田キャンパス 52 号館 1 階 101 教室
5. 分科会の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：

日本学術会議は、文部科学省高等教育局長からの依頼により、分野別の教育課程編成上の参照基準を策定することを提案し、いくつかの分野に関して参照基準の策定を進めてきたが、今般、情報学分野においても、情報科学技術教育分科会により参照基準(案)が取りまとめられたことから、この参照基準(案)に関して解説し広く意見等を募るために、公開シンポジウムを開催する。分野別の参照基準は学士の専門課程を対象としているが、初等中等教育、大学教養(共通)教育等とも深く関わっている。本シンポジウムでは、文部科学省の教科調査官にも講演を依頼し、高等学校情報科における情報教育、大学教養(共通)課程における大学一般情報教育と、参照基準との接続も含めて、広く情報教育に関して議論する場を提供する。

7. 次 第：

- 13:30: 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準
北原 和夫（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）
- 14:00: 情報学分野の参照基準
萩谷 昌己*（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授）
- 14:30: 基礎情報学
西垣 通*（日本学術会議特任連携会員、東京経済大学コミュニケーション学部教授）
- 15:00: 質疑・休憩

15:30: 高等学校情報科

鹿野 利春 (文部科学省教科調査官)

16:00: 大学一般情報教育

笥 捷彦* (日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院情報科学部
教授)

16:30: 情報教育の展望

美馬のゆり* (日本学術会議連携会員、公立はこだて未来大学情報科学部
教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催委員会等委員)

(提案 20)

公開シンポジウム「第8回形態科学シンポジウム『生命科学研究の魅力を語る：高校生のための集い』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会
2. 後 援：日本細胞生物学会、日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学会、日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 日 時：平成 27 年 10 月 24 日（土）14:00 ～ 17:30
4. 場 所：九州大学病院地区 コラボステーション I 視聴覚ホール
5. 分科会の開催：開催予定あり
6. 開催趣旨：
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)校を中心に、医学・生物学研究に関心を持つ高校生に呼びかけ、医学・生物学研究の最前線を分かりやすく解説する。また第一線の研究者と高校生が気軽に語り合う場を設け、将来の医学・生物学研究を担う人材の啓発に資するものとしたい。
7. 次 第：
14:00 開会挨拶
中野 明彦*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科
生物科学専攻教授）

14:05 講演会
座長：
菊池 章*（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院医学系研究科
分子病態生化学教授）

・講演1「幹細胞って何？～神経幹細胞を中心とした病気や再生医療に関する話題～」
中島 欽一（九州大学大学院医学研究院教授）
・講演2「細胞同士のコミュニケーションの方法～精子形成での細胞接着分子の新しい役割～」
若山 友彦（熊本大学大学院生命科学研究部教授）

15:45 高校生と語る会
司会：

藤木 幸夫*（日本学術会議連携会員、九州大学生体防御医学研究所特任教授）

小路 武彦*（日本学術会議連携会員、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授）

16：25－16：35 （休憩と会場移動）

16：35 交流会 （コラボステーションⅡ 1階 コミュニティーラウンジ）

17：25 閉会挨拶

内山 安男*（日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 2 1)

公開シンポジウム「サイバーセキュリティと実践人材育成」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会
2. 共 催：東京大学、情報セキュリティ大学院大学
3. 後 援：内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）、経団連、電子情報通信学会、情報処理学会、IEEE Computer Society
4. 日 時：平成 27 年 11 月 2 日（月） 13：30～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

企業活動のみならず国家レベルでの最重要課題であるサイバーセキュリティにおいては、最先端の技術力と実践的な人材の育成と確保が必須となる。

本シンポジウムでは、世界的視野からサイバーセキュリティを支える研究開発と将来を担う実践的なセキュリティ人材育成の在り方について、世界をリードする有識者、わが国のセキュリティ政策立案者、人材を受け入れる産業界、研究開発と人材育成を進める学术界、をまじえて議論する。

8. 次 第：

13:30 開催挨拶

尾家 祐二*（日本学術会議第三部会員、九州工業大学理事・副学長）

講 演（案）

13:40 “サイバーセキュリティの現状と課題（仮題）”

相田 仁*（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

14:30 “欧州のサイバーセキュリティ研究・実務と人材育成（仮題）”

Stefano Zanero, Assistant Professor, Politecnico di Milano

15:20 ～ 休憩 10 分 ～

15:30 “我が国のサイバーセキュリティ政策と人材育成（仮題）”

谷脇 康彦（内閣サイバーセキュリティセンター副センター長）

16:10 “産業界からのサイバーセキュリティ人材育成への期待（仮題）”

調整中（経団連の主要企業）

16:50 “我が国のサイバーセキュリティ研究と人材育成（仮題）”

砂原 秀樹（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

17:30 閉会挨拶

後藤 厚宏*（日本学術会議連携会員、情報セキュリティ大学院大学教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 2 2)

公開ワークショップ「ジオハザードに対処できる人材の育成：防災国際ネットワーク構築に向けた国内連携のあり方」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東北大学災害科学国際研究所
2. 後 援：日本地球惑星科学連合、日本地質学会、東京地学協会、日本第四紀学会、東京大学、筑波大学、新潟大学、静岡大学、京都大学、山口大学、高知大学、信州大学
3. 日 時：平成27年11月20日（金）13：30 ～ 18：00
4. 場 所：国立大学法人東京海洋大学大講義室（越中島キャンパス、第4実験棟5階）
5. 分科会の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：

活動的な沈み込み帯に位置する国々では活発な地球活動に関わる災害が多発する。地震・津波、火山活動、異常気象に伴う地滑りなどである。沈み込み帯に位置する国々は、開発途上国が多く、これらの地質災害にかかる備えが不十分である。災害先進国である、日本が、今まで培って来たノウハウを提供し、ともに減災に向けた取り組みをすべきである。

本ワークショップでは、地震、津波、地滑り、火山災害等の地質災害を被る可能性が高い国々に対して行っている国際交流の現状を把握し、今後、どのようにして二国間交流あるいは多国間交流を構築してノウハウの移転を行うか、その問題点と仕組みづくりを議論する。とくに、国内体制の整備について関係者が一堂に会して意見交換を行い、国内連携体制の構築を目指す。

8. 次 第：

13：15 開場

司会：

北里 洋*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構 東日本海洋生態系変動解析プロジェクトチームプロジェクト長）

13：30～13：40 趣旨説明とワークショップのゴール

北里 洋*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構 東日本海洋生態系変動解析プロジェクトチームプロ

ジェクト長)

《第一部：Geohazard 人材育成の現状紹介》

13：40～15：45 インドネシアとの交流

中田 節也* (日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授)

バングラディッシュとの交流

益田 晴恵* (日本学術会議連携会員、大阪市立大学大学院理学研究科教授)

ネパールとの交流

酒井 治孝 (京都大学大学院理学研究科教授) (交渉中)

スリランカとの交流

後藤 和久 (東北大学災害科学国際研究所准教授)

15：45～16：00 休憩

《第二部：Geohazard 人材育成に向けた国内連携のありかたと国際ネットワークへの将来構想 (パネル討論)》

司会：

小川勇二郎* (日本学術会議特任連携会員、IUGS 理事、筑波大学名誉教授)

16：00～18：00 国際ネットワーク構想の概要説明

小川勇二郎* (日本学術会議特任連携会員、IUGS 理事、筑波大学名誉教授)

今村 文彦 (東北大学災害科学国際研究所所長)

金田 義行 (名古屋大学減災連携センター特任教授)

久田健一郎 (筑波大学生命環境科学研究科教授)

佃 栄吉* (日本学術会議連携会員、産業技術研総合研究所理事)

本蔵 義守 (東京工業大学名誉教授) (交渉中)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 2 3)

公開シンポジウム「ケンムン広場：奄美のくらしと生物多様性」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 環境学委員会 自然環境保全再生分科会
2. 共 催：宇検村、「自然保護地域における共同管理のための情報交流システムの開発：奄美大島をモデルとして」環境研究総合推進費研究グループ（環境省）
3. 後 援：環境省自然環境局那覇自然環境事務所、鹿児島県、奄美群島広域事務組合
4. 日 時：平成27年11月28日（土）13：30～16：00
5. 場 所：奄美大島宇検村「元気のでる館」大ホール（鹿児島県）
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

急激な人口減少及び地域的偏在化、少子化などが日本の地方の今後に暗い影を投げかけている。「生物多様性の保全と持続可能な利用」及び「自然再生」などに関わる活動領域は、現在でも比較的良好な自然環境にめぐまれた地域の発展に新たな契機を与える。鹿児島県奄美大島は、今でも出生率が比較的高く、自然と伝統文化に恵まれており、その森林域は、世界自然遺産への登録をめざして近々新しい国立公園に指定されようとしている。独特な自然と文化を持続可能な形で活かすことは、地域の持続的な発展に寄与することが期待される。そのためには、地域のくらしに根ざした文化と生物多様性、及びそれらの価値を、地域内外の多様な主体が十分に認識することが前提となる。それに資する情報交流と協働モニタリングの手法が実践を伴って検討されている奄美大島は、生物多様性とそれをめぐるくらしの文化に関する認識を深め・広げ・共有するフォーラムの開催にふさわしい地域である。ケンムンは奄美大島の住民であれば誰もが知っている自然の守り手ともいうべき妖怪である。その「ケンムンが見守る広場」において、ケンムンを含む奄美の文化と生物多様性を語り合うことの意義は大きいものと思われる。

8. 次 第：

挨拶 13:30-13:50

地元からの挨拶：

元田 信有（宇検村長）

分科会からの挨拶と開催趣旨：

鷺谷いづみ*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

リレートーク 1：奄美の生物多様性 13:50-14:30

加藤 真（日本学術会議連携会員、京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

戸部 博*（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

鷺谷いづみ*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

リレートーク 2：奄美の暮らしと文化とケンムン 14:30-15:10

中山 清美（奄美大島文化財連絡協議会会長、ケンムン村村長）

安溪 遊地（山口県立大学国際文化学部教授）

休憩 15:10-15:30

「ケンムン広場」データベースとアプリの開発（ビデオ出演）15:30-16:00

喜連川 優（日本学術会議第三部会員、東京大学生産技術研究所教授、情報・システム研究機構国立情報学研究所所長）（ビデオ出演）

安川 雅紀（東京大学地球観測データ統融合連携研究機構特任助教）

報告・討議 「活発な情報交流のためのケンムン広場をどう築くか」

16:00-17:00

シンポジウム参加者全員

司会

鷺谷いづみ*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 24)

日本学術会議近畿地区会議主催学術講演会「食と文化—歴史から未来へ」
(仮題) の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、奈良女子大学、近畿大学（予定）
2. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団、奈良県（予定）、奈良市（予定）
3. 日 時：平成27年11月7日（土）13:00～17:00
4. 場 所：奈良女子大学 講堂（奈良市北魚屋東町）

5. 開催趣旨：

食は人間にとって最も基本的なものであるにもかかわらず、あまりに日常的なことであるため、意識的に考えることなく過ごしてしまいがちである。しかしながら昨今のグルメブームに加えて、偽装食品問題などによって、食の問題は多くの人にとって緊急の重要課題となっている。

本講演会では、歴史学、農学、栄養学、環境学などの様々な観点から日本の食を捉え直し、またクロマグロの完全養殖の話を交えながら、食の未来についても考える契機とする。奈良は日本文化の故郷であり、日本の食の歴史と未来を考えるには最適の場所である。

6. 次 第：

開会の挨拶

梶 茂樹（日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事、
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

今岡 春樹（奈良女子大学学長）

井野瀬 久美恵（日本学術会議副会長、甲南大学文学部教授）

趣旨説明

上野 民夫（日本学術会議近畿地区会議学術文化懇談会委員、京都大学
名誉教授）

基調講演「文化の中の食 日本の食文化とその軌跡など（仮）」

佐藤 洋一郎（京都産業大学フューチャーセンター教授）

報告1「食の歴史—万葉の文化と食（仮）」

伏木 亨（龍谷大学農学部教授）

報告2「食の現在—子どもの食と健康（仮）」

久保田 優（龍谷大学農学部教授）

報告3「食の未来—近大マグロ（仮）」

熊井 英水（近畿大学名誉教授）

全体討論

司会：

伊藤 公雄（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

閉会の挨拶

梶 茂樹（日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）（予定）

全体司会

三成 美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学大学院生活環境科学系教授）

(提案 25)

日本学術会議東北地区会議主催学術講演会「感染症研究～過去、現在、未来～（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議東北地区会議
2. 共 催：秋田大学
3. 日 時：平成 27 年 11 月 25 日（水）13：00～16：30
4. 場 所：秋田大学 60 周年記念ホール
（〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1－1）
5. 次 第
 - (1) 開会挨拶
澤田 賢一（秋田大学学長）
 - (2) 主催者挨拶
 - ① 向井 千秋（日本学術会議第二部会員・副会長、東京理科大学副学長）
 - ② 庄子 哲雄（日本学術会議第三部会員・東北地区会議代表幹事、東北大学未来科学技術共同研究センター教授）
 - (3) 講 演
 - ① 明治・大正の東北の感染症学者達一志賀潔・野口英世・大原八郎
竹田 美文（公益財団法人野口英世記念会副理事長、元国立感染症研究所所長）
 - ② 新興感染症、最近の話題
河岡 義裕（日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所教授、ウイスコンシン大学教授）
 - ③ 感染症治療薬、現状と今後の可能性
今井 由美子（日本学術会議第二部会員、秋田大学医学系研究科教授）
 - (4) パネルディスカッション
パネリスト：調整中（日本科学未来館科学コミュニケーター）
 - (5) 閉会挨拶
今井由美子（日本学術会議第二部会員、秋田大学医学系研究科教授）

第13回産学官連携功労者表彰（つなげるイノベーション大賞） 授賞式 開催概要（案）

1 目的

産学官連携功労者表彰は大学、公的研究機関、企業等における産学官連携活動において大きな成果を収めた事例に関し、その功績を称えることにより、我が国の産学官連携の更なる進展に寄与することを目的に、平成15年から実施している。

受賞することとなった功労者を称え、優れた産学官連携の事例をより多くの国民に紹介するために授賞式を行う。

2 日時

平成27年8月28日（金）13時30分～16時00分 ※予定

3 場所

東京ビッグサイト レセプションホール

4 主催（予定）

内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本経済団体連合会、日本学術会議

5 賞の種類

内閣総理大臣賞、科学技術政策担当大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、日本経済団体連合会会長賞、日本学術会議会長賞（以上、11賞）

6 プログラム（予定）

時間	内容
13:30	(1) 開会
13:30-13:35	(2) 主催者代表挨拶
13:35-15:00	(3) 表彰状授与
15:00-15:20	(4) 内閣総理大臣賞受賞者によるプレゼンテーション
15:20	(5) 閉会
15:20-16:00	(6) 全体記念写真撮影等

7 関連プログラム

イノベーション・ジャパン2015会場にて、各受賞内容を紹介するパネル展示